



## 小さなクルマ、 大きな未来。

スズキ株式会社  
代表取締役副社長

本田 治

### はじめに

スズキは2013年、夏までにいくつかの技術を盛り込んだクルマを発売することができました。

#### 2月 「軽乗用車 アルトエコ」

- ・燃費改良30.2km/L→33.0km/L\*

#### 「軽乗用車 スペーシア」

- ・90kgの軽量化により29.0km/L\*達成
- ・スマートフォン連携ナビゲーション開発

#### 7月 「軽乗用車 ワゴンR」

- ・燃費改良28.8km/L→30.0km/L\*
- ・衝突被害軽減ブレーキシステム開発

#### 「小型乗用車 スイフト」

- ・燃費改良21.8km/L→26.4km/L\*
- ・デュアルジェットエンジン開発

#### 8月 「軽商用車 キャリイ」

- ・商用初のR06Aエンジン採用
- ・作業用途の実力向上
- ・「働く軽トラ」に徹した商品化技術

### ワゴンR 20周年

今年発売したクルマのひとつ、ワゴンRは1993年に発売し、今年で20周年を迎えることができました。また、たくさんのユーザーの皆様へ愛され、おかげさまで国内累計販売台数は400万台を越えました。

先輩開発者達は、サイズが限られた軽自動車であっても使い勝手はどうしたらもっと良くできるだろうか、そして、運転するだけでなく見るだけでも喜んでいただけるようなクルマとは何かを熱い姿勢で考え、それをワゴンRという形にしました。

ワゴンRの誕生は、車体やエンジンなど個々の技術はもちろん、今までの軽自動車にはなかった背の高いクルマにまとめ上げた発想とパッケージング技術によるものでした。いまやワゴンRは、軽のスタンダードになったといっても過言ではないでしょう。

そして、ワゴンRをはじめとするスズキのクルマは、次世代のスタンダードにすべく様々な技術を採用・開発しています。



エネチャージ搭載車

## 技術

私たちスズキは次の4つの技術がクルマづくりに重要と考え、取り組んでいます。

- ① 環境技術
- ② 安全・安心技術
- ③ 情報・通信技術
- ④ コスト削減技術

### ① 環境技術

環境技術は、軽量化や内燃機関とパワートレインの改良、そして電動化です。

ワゴンRは、先代モデルに対し70kg、スペーシアでは90kgにもおよぶ軽量化を実現いたしました。今後、これらの技術をプラットフォーム単位に体系化し、進めてまいります。

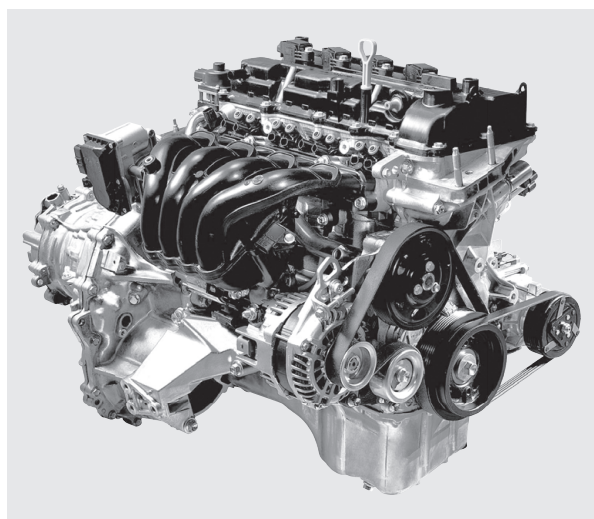
パワートレイン改良は、エンジンの熱効率の改良を中心に、まだまだやらなければなりません。軽自動車は、順次、新設計のR06A型エンジンに切り替えています。小型車については、ポート噴射式ながらインジェクターを2つにした混合気の生成を改良するK12B型デュアルジェットエンジンを新開発いたしました。

これを搭載したスイフトは1.2L以上のガソリン車トップの低燃費26.4km/L\*を実現しました。

電動化の分野では、軽自動車では初めての本格的エネルギー回生技術「エネチャージ」を実用化、その採用機種を拡大しています。

そして、回生効率を向上させるとともに、さらに電動化を発展させていく考えです。

### ② 安全・安心技術



K12B型 デュアルジェットエンジン

安全面では、レーザーレーダーを使った「衝突被害軽減ブレーキシステム」をワゴンRとスペーシアで商品化いたしました。

そして、ミリ波レーダーの採用や歩行者の検出など、さらなる安全・安心技術に取り組んでいます。

### ③ 情報・通信技術

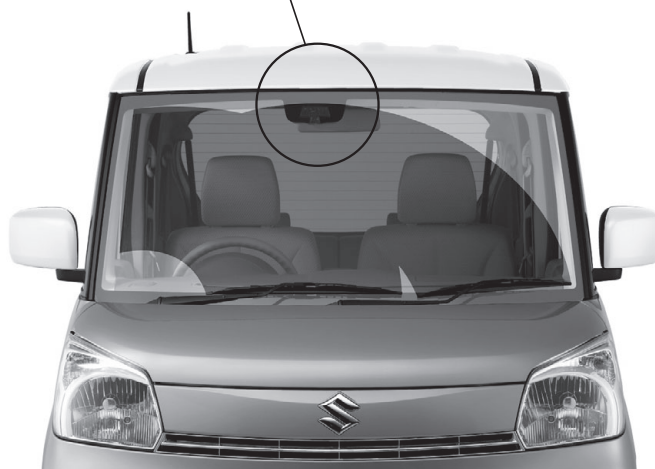
情報・通信関連では、「スマートフォン連携ナビゲーション」を開発しました。この分野はエンターテインメントだけでなく、道路情報、車々間通信などASV、ITSの展開にも繋がる技術です。ASVプロジェクト等、皆様と協力し、開発してまいります。

### ④ コスト低減技術

環境技術や安全・安心技術、情報技術など、今後の車両開発には多大のコストが掛かります。しかしながら、お客様にご購入していただけないようなクルマであれば、その技術は実現したことにはなりません。

軽自動車やコンパクトカーがこれからもお客様にとってお求めやすい価格で提供できるよう設計と生産の両分野で取り組み続けます。

\*JC08モード走行（国土交通省審査値）



レーダーブレーキサポート（レーザー発光部）